

白リハさんぽ
病棟の様子を看護師目線でご紹介します
通所リハビリテーションのご案内

特集
食べる力を守るために
教えて、せんぱい

はくりハ

白十字リハビリテーション病院



社会医療法人財団 白十字会 白十字リハビリテーション病院 はくりハ「春号」 発行：広報委員会（編集長：野上愛 編集担当：山田公美・横川亜希代） 発行日 令和8年3月



短期リハビリ入院のご紹介

患者さんの「したい」こと「退院のその先」を見据え、一人ひとりのニーズに合わせたプログラムを提供します。



痙縮治療

手足の麻痺とともにあらわれる、つっぱり（痙縮）に対する治療を行います。



リハビリコース

不安点（ふらつき・転倒・食事の飲み込み等）に関して、入院時に全身検査を行い、安心して在宅生活が行えるようサポートします。



ロボットスーツ HAL®

従来の療法士による訓練だけではなかなか確保しづらい訓練量をロボットリハビリテーションによってサポートします。

↓↓↓↓↓ ご相談は地域医療連携課へ ↓↓↓↓↓

私たちがお答えします！ 地域医療連携課のご案内



病院について気になること、何でもご相談ください。

患者さんやご家族が抱える不安や疑問を解消するために、専門のスタッフが患者さんの状況に合わせた、きめ細やかなサポートを提供しています。患者さんが病院内外で直面する様々な課題に対して、最適な解決策を見つけるお手伝いをいたします。どんな小さな疑問や悩みでも、お気軽にご相談ください。

《ご相談内容》

- ・入退院のご相談 ・介護保険などのご相談 ・病院見学のご案内
- ・各種医療機関からのご相談、診療紹介や検査照会など
- ・療養上のさまざまなご相談 ・認知症に関する相談など

TEL: 092-891-2622
FAX: 092-891-2677
受付時間: 平日 9:00 ~ 17:00

表紙について

特集の「教えて、せんぱい」に出ている2人に表紙を飾ってもらいました。言語聴覚士の森さんはリハビリテーション室にて、医療ソーシャルワーカーの渡部さんは白十字メディカルケアセンターにて撮影しました。森さんは前向きで頼りがいのある方です。渡部さんは思いを汲み取ることが上手なやさしい方です。2人のおかげで楽しい撮影となりました。撮影スタッフ（談）



社会医療法人財団 白十字会

白十字リハビリテーション病院

〒819-8611 福岡県福岡市西区石丸3-3-9

TEL: 092-891-2611 (代表) / FAX: 092-891-2633 (代表)

<https://www.fukuoka.hakujyujikai.or.jp/reha/>



ホームページはこちら



バスの時刻表はこちら



特集
医師に聞いてみました

“食べる力”を守るために

「摂食嚥下障害について」

摂食嚥下とは、一言でいうと「食べること」ですが、食べ物を「食べ物」と理解し、口へ取り込み、歯で噛み、舌で喉へ送り込み、喉を通して胃へ運ぶまでの、一連の複雑な動作で成り立っています。

喉を通る嚥下の瞬間には、「喉頭蓋」という、いわば喉の蓋が、気管の入り口である喉頭を塞ぎ、食べ物や飲み物が気管に入らないように守っています。

私たちは普段、何気なく食事をしていますが、「食べること」は脳や神経と、口・喉・食道が連携してはじめて成り立つ動作なのです。この仕組みのどこかに、障害が生じた状態を「摂食嚥下障害」といいます。摂食嚥下障害があると、むせ込んだり、肺炎を起したり、十分な栄養が摂れず低栄養状態になってしまいます。低栄養は体力や免疫力の低下を招き、生命の維持にも大きく関わってきます。

摂食嚥下障害の原因はさまざまですが、脳卒中などの脳の病気が主なものとして挙げられます。当院はリハビリテーション病院であるため、脳卒中によって摂食嚥下障害を生じた患者さんが多く入院されています。

加齢による筋力・感覚の低下

摂食嚥下障害は、脳卒中などの病気だけでなく、加齢によっても起こります。高齢者では、喉の筋力低下や靱帯のゆるみによる構造変化が起こり、嚥下障害につながると言われています。つまり、病気をされた方だけでなく、どなたにでも起こりうる状態なのです。

前号ではサルコペニアについて触れられていましたが、低栄養状態であるサルコペニアは全身の筋力低下を引き起こします。その結果、喉の筋力も低下し、摂食嚥下に問題が生じます。摂食嚥下障害によってさらに低栄養が進み、悪循環に陥ってしまうのです。

摂食嚥下は、脳や神経、口や喉の働きが連携して行われる、私たちの生命維持に欠かせない重要な機能です。

安全に食べるために

急性期病院から脳卒中の方がリハビリテーション病院へ転院された際、胃管が挿入された状態であったり、やわらかい食事が提供されていることがほとんどです。

医師と言語聴覚士（ST）が相談しながら、安全に食べるために評価を行い、食事形態や水分のとり具合、食事時の姿勢などを検討していきます。

当院の検査方法

ベッドサイドでの簡易的な飲み込みの検査に加え、必要に応じて「嚥下造影検査」や「嚥下内視鏡検査」を行います。

評価の下に、口の動きに問題があったり、歯が少なく十分に噛めない方には、やわらかく刻んだ食事、一度に多く飲み込むことで誤嚥を起しやすき方には、一口量を減らすなど工夫を行っていきます。さらさらな水分は喉を通るスピードが速いため、飲み込むタイミングが遅れる方では誤嚥を起しやすくなります。そのため、とろみをつけることが誤嚥の予防につながります。

こうした食事の状況や注意点を、看護師や介護士、管理栄養士といった多職種と共有しながら、患者さんの「食べること」を支えています。

患者さん一人ひとりのために

安全に「食べること」を続けるためには、早期の評価と適切な食事形態の調整、リハビリテーション、そして日頃からの姿勢や運動の積み重ねが大切です。

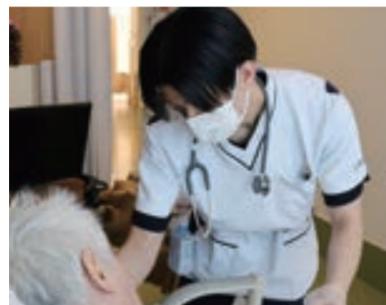
当院では多職種が連携し、患者さん一人ひとりが安心して食事を楽しめるよう支援しています。



● 嚥下造影検査（VF）
レントゲン下でバリウムを飲み、嚥下の流れを動画で確認します。舌の動きから食道まで、より詳しく評価できます。



● 嚥下内視鏡検査（VE）
細い内視鏡を鼻から入れ、のどの動きや誤嚥の有無を観察します。入院中・外来でも行われる代表的な検査です。



● ベッドサイドでの評価
食形態を変えながら安全に食べられるか、口腔内の状態や嚥下反射などを言語聴覚士（ST）が丁寧に観察します。



小川 さや香
SAYAKA OGAWA

《資格・所属学会》
日本脳神経外科学会 脳神経外科専門医
日本脳神経超音波学会 認定脳神経超音波検査士
医学博士
《得意分野・得意疾患》
脳神経外科、摂食嚥下



わたしは言語聴覚士 4年目です

森 堪太郎
リハビリテーション部

ある日の1日

8:30 START

9:00 リハビリカンファ・
書類業務



10:00
リハビリ

患者さんとコミュニケーションをとりながら状態を確認します

12:00 食事評価
患者さんの食事の様子を観察します。しっかり噛み、ゴクンとスムーズに飲み込めているか、むせたりしていないかなどをチェックしています。



13:00 お昼休憩

14:00 ~
検査・リハビリ

造影検査やリハビリなどをしています。



17:00 翌日のスケジュール調整

17:30
勤務終了

職場で試行錯誤！
正直初めは、苦難の連続でした。担当として患者さんのリハビリを行う責任感や緊張感、職場内での人間関係、言葉遣いや文章表現など、新卒ならではの壁に悩んでいました。自分は本当は何がしたいのか、自分を見つめなおす時間をとり、どうすれば解決できるのか、試行錯誤による工夫は今でも続いています。

私が言語聴覚士をめざしたわけ
高校生の時、進路希望調査の1週間前に将来について悩んでいました。友人の紹介もあり、言語聴覚士の存在を知りました。全国的にも数が少なく、貴重な人材だと思い、専門学校へ進みました。学ぶうちに、嚥下領域に興味が湧いてきました。白十字リハビリテーション病院は、造影検査（VF）や内視鏡検査（VE）や訓練機器も充実しており、整った環境で自分自身も成長できると考え就職しました。

当院は素晴らしい環境で、いちセラピストとして、いち人間として成長できる場であると考えます。まだまだ未熟ですが、目の前の患者さんのために尽力していきたいと思えます。この記事をみているあなたにも、あらゆる不安や悩みがあると思いますが、お互いに成長できるような努力できたらと思います。

患者さんのために
悩んでいるときは、同期や上司、ときには患者さんの経験をお聞きしたりして、今では「無償の愛」「自由」「唯一無二」という価値観を見つけることができました。「無償の愛」については、阪元病院長が言われている「ハートフルなりハビリテーション」、1日でも早い社会復帰を目指す、「このスローガンに真摯に向き合っている姿勢をみて、「愛」という言葉の意味を具体的な価値観として落とし込むことができ、日々の患者さんとの関わりに明確な意味を見出すことができました。



渡部 令奈
地域医療連携課

ある日の1日

8:30 START

9:00
リハビリカンファ

9:50
退院支援カンファ
前日に入院した患者の退院支援について話し合う

10:30 電話対応
施設の空き状況問い合わせや家族への来院依頼をする



12:00 お昼休憩

13:00
リハビリカンファ
入院して1週間程度の患者のカンファに参加し病前の生活リハビリゴール時期について話し合う



15:00 患者、家族対応
患者や面会に来た家族へ声かけし情報共有を行う



16:00 カルテ記載

17:30
勤務終了

MSWってカッコイイ！
大学で社会福祉士の資格取得勉強を進める中で医療ソーシャルワーカー（MSW）の仕事を知りました。最初は「病院で働くってなんだかいな」くらいの軽い気持ちでしたが、そこから実習先でのMSWの的確な社会資源の情報提供と包み込む傾聴力に圧倒され「MSWってカッコイイ」と思うようになりました。
1つひとつの相談に向き合うため
働き始めてから意識していることがあります。それは「入院に慣れない」ことです。私にとって入院は日常になっていきますが、患者さんやご家族にとっては人生の大きな出来事だと思います。もともと生活が続けられるのか、続けられない時はどうしたらいいのか、など漠然とした不安が少しでも軽くなるように、1つひとつの相談に丁寧に向き合っていきたいです。不安解決のために、これからも社会資源収集の自己研鑽を頑張ります！



わたしはMSW 4年目です

リハビリテーション病院ですが、退院先がもとの生活（自宅）ではなく施設や転院になる場合もあります。施設や病院への退院となった場合でも、その患者さんにとっては安全安楽に過ごすための大切な選択だと思っています。個人的には自宅以外への退院もあまりマイナスに捉えていません。1人の生活の分岐点を感じるときもありますが、実際に退院される際の笑顔にやりがいを感じています。
患者さん、ご家族のために
私が丁寧なソーシャルワークを提供できるのは、病院全体が「患者さん、ご家族さんのために」という思いを大切にしており、丁寧な関わり方が根付いた環境で働けているからだと思っています。これからも入院に慣れず、患者さんと向き合っていきたいです。



通所リハビリテーション のご案内

白十字リハビリテーション病院の通所リハビリテーションでは、病院併設型の強みを活かし、退院直後の集中的なリハビリテーションから、長期的な身体機能の維持・向上まで幅広く対応しています。地域の中で「生き生きと暮らし続ける」ための架け橋となることを心がけています。

これからも、地域とともに「したい」を実現していきます。多職種が連携し、利用者のチフリーズに、住み慣れた地域でその人らしい生活を続けるための支援を行っています。



「したい」を「している」に変える個別支援
リハビリテーションスタッフを中心に、日常生活動作や役割の再獲得を目標とした支援を行っています。

楽しみと社会参加の両立
レクリエーション、園芸、創作活動などの作業・活動も取り入れ、楽しみや社会参加につながる機会を大切にしています。

「一生現役」を支える運動プログラム
身体機能の維持・向上を目的にパワーリハビリテーションや集団起立訓練などの運動プログラムを実施し、立ち上がり、歩行といった基本動作の改善を図るとともに、健康管理の支援も行っています。



「ふくおか元気向上チャレンジ」金賞受賞 2年連続 受賞しました



“やりたい”を実現する取り組みが評価され、令和5年度・6年度「ふくおか元気向上チャレンジ（在宅高齢者の要介護状態改善事業）」において、当院通所リハビリテーションは2年連続金賞を受賞しました。他事業所と連携し、利用者の目標を中心に据えた支援が高く評価された結果です。

当院、通所リハビリテーションにおけるリハビリテーションや生活支援は、単なる機能改善にとどまらず、その人の人生や役割に寄り添って行っています。

白リハさんぽ

病棟の様子を看護師目線でご紹介！
看護師は、患者さんと深く関わる機会が多く、その役割は多岐にわたります。単に医療処置を行うだけでなく、その人らしい生活を送るためのサポートを行っています。



6:30 患者さんが起床



8:00 患者さんの朝食
ケアスタッフと一緒に配膳しています



8:30 日勤者出勤・朝礼
患者さんの状態や注意などスタッフ間で情報共有します。

業務スタート!! 患者さんに朝のご挨拶しながらベッド周りを清掃します。



9:00 患者さんの着替え
患者さんが昼夜のメリハリをつけるため、日中は運動着に着替えます! 患者さん自身で着替えができるように支援します。

10:00 患者さんの検温



14:00 退院支援カンファ
ご本人の望みが退院後に実現できるよう担当者へお伝えします。



食事も大切な訓練なんだ!

15:00 自主訓練
レクリエーションサポート
リハビリ以外にも、ご自身でもできる運動プログラムや脳トレを取り入れてサポートします。

12:00 患者さんの昼食
管理栄養士やリハスタッフと検討しながら支援します。

11時に休憩室や食堂でお昼ご飯をたべます。



15:30 患者さんの入浴
患者さんの能力に応じて入浴の支援をします。



着替えることでメリハリがついていいわね!

16:00 患者さんの着替え
リハビリが終わった患者さんから寝衣へ着替えをします。

17:30 日勤者勤務終了
夜勤者へ交代します。



22:00 消灯

20:00 夜の体調確認に看護師がまわります



18:00 患者さんの夕食
今日のリハビリのことなど患者さん同士でお話ししながらのディナーです。

よろしく! まかせて!

